

「松・竹・梅」

城南中学校 2年 小畑 花絵来

松・竹・梅を生ける

25R 57番
小畑 花絵来
12 30 水

◎ 松・竹・梅を使って、正月に向けて花を生ける。

生け花とは何

花や草木を器にいけること。

しかし数ある花や草木、器を組み合わせられていた作品には季節、天候などの自然観が空間に表現され、「いける」その人自身を見てとることができる。

生け花は「100年の歴史の中で、さまざまな様式を生み出してきました。7(王)型の器に生ける花瓶花(ハイク)、皿型の水盤とよばれ器に生ける盛花(モリバナ)などがあります。

生け花をするときのコツ

- ① 花と花器との調和や飾る場所の雰囲気に合わせて花を選ぶ
- ② できるだけ枝や葉を省略し、いかに少ない花で美しく見せられるかが大切
- ③ 色合いや形などバランスをよく考える

なぜ正月にはよく松竹梅が生けられるのか

「歳寒三友(せんかんのともやう)」

→中国で冬に書く画題として多く取り上げられたのが「松」「竹」「梅」。

松・竹・梅 全てにおいて縁起が良い。

松や竹は冬の寒さや風雪に耐え、緑を保ち続ける。また梅は梅などの他の花と比べて早い、2月ごろに開花する。梅の花言葉は「清らかさ」「高潔」「清純」。

＝松や竹の、冬の寒さに耐えながら緑を保つ力強さと、冬の寒さの真ん中にある、花を開かせる、清らかな梅。

この3つが合わさって、冬の寒さに耐え、新しくスタートさせる

という意味合いを持つ「歳寒三友」が生まれた。

寒い時期に新しくスタートを切る、新年のお祝いにふさわしい意味を持つ松竹梅は、こういった理由から縁起が良い、とよく用いられるようになった。

「松」「竹」「梅」の意味

「松」

松は、古くから日本では神聖な木とされてきた。

一年中葉を付ける「常緑樹」であり、樹齢も数十年～百年以上と長いことから、「生命・長寿」の象徴とされている。

平安時代ごろから扱われるようになった。

「竹」

竹は、まっすぐに伸びる姿と、地面に深く、カリと根を張って葉を出していく。この様子から、竹は「子宝・子孫繁栄」の象徴とされている。

室町時代ごろから縁起が良いと言われるようになった。

「梅」

梅は、まだ春には少しは寒い、2月ごろに花を咲かせる。このことから、「生命力の強さ」「気高さ」、また、その気高い香りから「清らかさ」などの象徴とされている。

江戸時代ごろから扱われるようになった。



この作品をつくった理由は、このコロナ禍で外出できないため、少しでも正月気分を味わいたかったからです。みどころは、シンプルに松・竹・梅の中に色味がある花をいけることで、派手過ぎずとてもきれいに仕上げました。